

2008 年度

科目名 文化財学課題研究（分析科学の研究）	対象学科・学年 研究科前文1回生 研究科後文1回生	担当者 三辻 利一
授業テーマ 新しい土器の考古学 土器の伝播流通の研究		
授業の概要と目標 土器の詳細な型式観察によって土器編年ができ、土器の年代観を得ることができる。他方、最新の分析装置を使った蛍光X線分析法によって、土器胎土の元素分析から、土器の産地や土器型式との関係が解明できることが分かってきた。そして、土器の年代観と胎土の情報から、土器の伝播流通を追跡するという、新しい土器の考古学研究が開始された。本講義では新しい土器の考古学について講義する。その項目は以下の通りである。		
評価方法 レポートと出席日数		
テキスト とくになし	著者	出版社
参考書 講義の都度、紹介する	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 考古学 その過去、現在、未来 2. 自然科学の発展と新しい測定法の開発 3. 粘土と土器（素材と製品） 4. 蛍光X線分析法（1）原理 5. 蛍光X線分析法（2）測定法と定量分析 6. 放射化分析法 7. 日本産土器の系譜 8. 窯跡出土須恵器を分析する（地域差の発見） 9. 窯間の相互識別（2群間判別分析法） 10. 検定（母集団への帰属条件） 11. 土器の産地研究の構図 12. 埴輪の胎土研究 13. 「右、左」問題 14. 新しい土器の考古学の構図 15. 花崗岩類にみられる地域差 16. 花崗岩類と粘土 17. 素材粘土と製品土器 18. 窯跡出土須恵器、埴輪、中世陶器の地域差 19. 日本産土器の系譜 20. 産地研究と胎土研究 21. 軟質土器の胎土の研究（1） 22. 軟質土器の胎土の研究（2） 23. 軟質土器の胎土の研究（3） 24. 瓦の胎土研 25. 須恵器の産地研究 26. 灰釉陶器と山茶碗の産地研究 27. 萩陶器の胎土研究 28. 日本考古学の将来		